

新春インタビュー

一般財団法人 沖縄県社会保険協会
会長 金城棟啓

比嘉：本日は、年の初めの恒例になりました「新春インタビュー」で、沖縄県社会保険協会の金城会長にお話を伺います。

今年、広報誌「社会保険おきなわ」にコラムを載せていただき、また社会保険協会主催のセミナーで講師を務めました、私がインタビューアをさせていただきます。よろしくお願いたします。では、新春にふさわしい挨拶で始めてまいりたいと思います。あらためまして、明けましておめでとございませう。

金城：明けましておめでとございます。

比嘉さんには、私が役員を務める別の団体でもお会いしたことがあります、今日はあらためて新しい年にお話しができることを楽しみにしています。また、読者の皆様には誌面を通してですが、共に新しい年を祝いたいと思います。今年も皆様にとって、素晴らしい年になりますようお祈りします。



■金城棟啓氏 1954年生まれ
1977年4月 琉球銀行入行
2012年4月 頭取就任
2017年4月 会長就任（現職）
2013年3月 沖縄県社会保険協会
会長就任
他数多くの団体役員兼任

〓二〇一九年を振り返って

比嘉：お仕事では銀行をはじめ、いろいろな団体で重要な役職に就いておられる金城会長ですが、昨年はどのような年だったでしょうか。

金城：元号が「平成」から「令和」に変わりました。新しい時代の幕開けの年となります。どちらかと言うと閉塞感がある日本経済において、ラグビーワールドカップでの日本チームの活躍もあり、日本が目指す方向性と未来への期待が膨らんだように思います。

しかしながら、夏から秋にかけて日本各地で台風や大雨などの自然災害が猛威を振りました。世界の中でも自然災害が多い日本国であり、だからこそ「より強いレジリエンス（復元力）」が求められるということだと思います。

県内経済に関していいますと、観光客も一千万人を超えるなど比較的順調に推移したと思いましたが、十月三十一日未明に首里城の火災があり心が痛みましたが、すぐに再建に向けて多くの方々、それは県内だけでなく、県外、海外からの励みや募金が集まったことは、勇気をもらったように思います。

ただ、足元の米中貿易摩擦、香港の民主化運動の激化、日韓問題など様々な懸念事項が、今後どのように県経済に影響してくるか。不動産価格の上昇なども含め、沖縄の好調な観光や経済への影響を注意深く見ていく必要があります。

比嘉：社会保険協会では、昨年はいかがだったでしょうか。先ほどお話ししたように、広報誌に載せていただいた私のコラムのテーマが「働く人のコミュニケーション」だったのですが、協会主催のセミナーのメインテーマは「働き方改革セミナー」でした。それは、昨年四月に施行された働き方改革関連法とのかかわりはあったのでしょうか。

金城：大いにあったと思います。働き方改革関連法の施行は、多くの企業や事業所にとって、職場の生産性向上につながったと思います。また、働く人一人ひとりのワーク・ライフ・バランスへの意識が高まってきたこともいい変化ではないかと思っています。

比嘉さんに講師をお願いした「働き方改革セミナー」も職場の生産性向上と働く人一人ひとりのコミュニケーションスキルが高まることを企図して実施し、受講者から「とてもよかった」、「もっと聴きたかった」、「これからも勉強していきたい」などの声があがったと聞いています。今後も機会を見つけて、セミナー講師や広報誌へコラムの寄稿などをお願いいたします。

比嘉：お役に立てたのであればとても嬉しく思います。こちらこそよろしくお願いたします。

さて、二〇一九年を振り返ってもらいましたが、新しい年、二〇二〇年はどうなるのでしょうか。金城会長のお考えや思いをお聴かせください。

〽 二〇二〇年の展望

金城：そうですね。やはり東京オリンピック・パラリンピックの開催が焦点でしょうね。那覇空港の第二滑走路も供用開始となりますし、多くの外国観光客が沖縄にもこられるものと期待しています。それにより、世界での「おきなわ」の認知度が飛躍的に向上すると思います。

社会保険協会の会長としては、昨年の秋、政府で始まった、社会保障改革の議論に関心があります。「人生100年時代」に向けて、社会保障の持続可能性を確保するために「給付と負担のあり方」の検討や、あらゆる年齢層を対象とした「全世代型社会保障」の構築などが重要なテーマとなっています。

また、企業経営者としては、やはりICT（情報通信技術：Information and Communication Technology）の進化を背景とした世界規模の変化が気になります。昨年、ICT先進国であるバルト三国と中国深圳市を視察する機会がありましたが、加速していく環境変化に、国も企業も、個人も対応していかなければならないという危機意識を強く持ちました。単に便利になっていいのでは



なく、過剰な監視社会とならないようバランスの中でどう人類の発展につなげるか。我々は、どう生きるかを同時並行的に考える時代だと思っています。

〽 「おススメの本」

比嘉：いつも若々しい感性をお持ちの金城会長のお話を聞いていますと、私自身のテーマでもあります「リカレント教育（働きながら学ぶ）」という言葉が頭に浮かびました。

また、金城会長は、読書がご趣味と聞いておりますが、読者の皆様にも、今「おススメの本」はありますか？

金城：昨年の新春インタビューでもご紹介しましたが、我が社の5階に談話室があって、その本棚に私が読んだ本を

「空間認識能力」も持っています。最近、「まふまふ」という才能豊かなシンガーソングライターを知りました。我々が若い人から学ぶ時代だと思います。

〽 今年の抱負について

比嘉：最後になりますが、新しい年になりました。金城会長の今年の抱負をお聞かせください。

金城：常に世界は変化している。その変化を楽しみ、新しいことに常にチャレンジしていこうと思っています。それは、企業も個人も同じです。去年より今年はもっと良い年にしたい、いや、する。そう強く想うことから始まります。良い年をお迎えください。

比嘉：金城会長のポジティブなお話をお聴きして、私も勇気をもらいました。これからも社会保険協会の活動に期待したいですね。本日はお忙しい中、貴重なお時間をいただきました。ありがとうございます。



「店長おススメ」として並べています。どれがお薦めはありません。本はどんな本も面白い。若い人の活字離れが言われますが、本が売れないだけで、ネットでは様々な情報に接しているわけですね。若い人は私なんかより沢山の情報をもっていて、これまでもと異なる視点から物事を見ることができます。我々にはない



■比嘉 華奈江氏
株式会社Life is Love 代表取締役
大分県出身 98年沖縄へ移住
14年間航空会社の客室乗務員として勤務
2012年 株式会社Life is Love 設立
株式会社ワーク・ライフバランス 加盟
コンサルタント
日本教育推進財団 認定コミュニケーション・トレーナー